

令和3(2021)年度 長岡大学シラバス

| | | | | | | | | | |
|----------------|---|-------------|----|---------|---|------|---------------------|-----|----|
| 授業科目名 科目コード | 環境経済学 (Environmental Economics) 372052-14120 | | | | | 担当教員 | 西俣 先子 (ニシマタ ヒロコ) | | |
| 科目区分 | 専門科目 | 必修・ 選択区分 | 必修 | 単位 数 | 2 | 配当年次 | 2年次 | 開講期 | 後期 |
| 科目特性 | 知識定着・確認型 AL | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| ① 授業のねらい・概要 | | | | | | | | | |
| <p>環境問題と経済の関わりについて理解することを目的とする。授業は大きく分けて1. 基礎知識の習得、2. 理解の深化を狙ったテーマ別の学び、3. 問題の分析や問題解決の手法の理解の3つの部分から構成される。1. では環境問題について考えるための基礎知識として、環境問題の歴史や今後の環境問題を考えるうえで重要なコンセプトについて学ぶ。2. では環境と貿易、公害問題などの個別テーマを取り上げ、具体例を確認しながら、環境問題と経済の関わりについて考える。3. では環境問題を経済学の視点から分析し、環境問題が発生するメカニズムや問題を解決するための政策手法等について理解する。なお、環境経済学について説明する場合、図を使って説明する。</p> | | | | | | | | | |
| ② ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | | | | |
| 専門的知識・技能を活用する能力 | | | | | | | | | |
| ③ 授業の進め方・指示事項 | | | | | | | | | |
| <p>授業内容を理解しやすくするために映像等を利用する。質問等のやりとりをしながら授業を進めるため、積極的に答えていただきたい。授業中に出題した課題の提出期限を守ること（提出期限を過ぎたものは受け取らない）。</p> | | | | | | | | | |
| ④ 関連科目・履修しておくべき科目 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| ⑤ 標準的な達成レベルの目安 | | | | | | | | | |
| <p>(i) 環境問題と経済の関わりについて理解するための知識を身につける (ii) 環境政策、特に経済的手法について理解し、説明できるようになる</p> | | | | | | | | | |
| ⑥ テキスト（教科書） | | | | | | | | | |
| テキスト指定なし。代わりに、授業時に資料を配布する。 | | | | | | | | | |
| ⑦ 参考図書・指定図書 | | | | | | | | | |
| 宇井純(2006)『新装版 合本 公害原論』亜紀書房 | | | | | | | | | |

| ⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法 | | | | | | | | |
|-------------------------------------|-------------|------|-----|------|-----------|---------------|-----|------|
| 具体的な学習到達目標 | 試験 | 小テスト | 課題 | レポート | 発表・ 実技 | 授業への 参加・意欲 | その他 | 合計 |
| 総合評価割合 | 70% | | 20% | | | 10% | | 100% |
| (i) 環境問題と経済の関わりについて理解するための知識を身につける | 40% | | 20% | | | 5% | | 65% |
| (ii) 環境政策、特に経済的手法について理解し、説明できるようになる | 30% | | | | | 5% | | 35% |
| フィードバックの方法 | 課題は総評を公表する。 | | | | | | | |

| ⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等） |
|--|
| 教科書を使用しない科目であるが、スライド、配布資料で理解ができたようである。以後もより分かりやすい説明やスライドづくりを心掛け、配布資料についても理解が深まりやすいものを選定していきたい。 |

| ⑩ 授業計画と学習課題 | | | | |
|-------------|--------------|--|------------------------------|-----|
| 回数 | 授業の内容 | 持参物 | 授業外の学習課題と時間（分） | |
| 1 | イントロダクション | シラバス | シラバスを熟読し授業の目的を理解したうえで授業に参加する | 10分 |
| 2 | 経済活動の拡大と環境問題 | | 授業終了後に授業で示した重要箇所の確認を行う。 | 60分 |
| 3 | 経済成長とは何か？ | 資料配布 *配布した資料を次回も持参する必要があるかは授業中に指示する | 授業終了後に授業で示した重要箇所の確認を行う。 | 60分 |
| 4 | 持続可能な発展のために | 資料配布 *配布した資料を次回も持参する必要があるかは授業中に指示する | 授業終了後に授業で示した重要箇所の確認を行う。 | 60分 |

| | | | | |
|----|------------------------------------|--|--|-----|
| 5 | 【環境と貿易】 環境と貿易について考えるための基礎知識 | 資料配布 *配布した資料を次回も持参する必要があるかは授業中に指示する | 授業終了後に授業で示した重要箇所の確認を行う。 | 60分 |
| 6 | 【環境と貿易】環境と貿易の両立に関する歴史 | | 授業終了後に授業で示した重要箇所の確認を行う。 | 60分 |
| 7 | 【環境と貿易】環境と貿易の両立に関する議論 | 資料配布 *配布した資料を次回も持参する必要があるかは授業中に指示する | 授業終了後に授業で示した重要箇所の確認を行う。 | 60分 |
| 8 | 【公害・環境問題】 公害・環境問題の歴史 | 資料配布 *配布した資料を次回も持参する必要があるかは授業中に指示する | 授業終了後に授業で示した重要箇所の確認を行う。 | 60分 |
| 9 | 【公害・環境問題】 公害・環境問題の本質1（公害の事例を知る） | 資料配布 *配布した資料を次回も持参する必要があるかは授業中に指示する | 授業終了後に授業で示した重要箇所の確認を行う。 | 60分 |
| 10 | 【公害・環境問題】 公害・環境問題の本質2（公害の事例と対策） | | 授業終了後に授業で示した重要箇所の確認を行う。 | 60分 |
| 11 | 【公害・環境問題】 経済学の視点からみる公害・環境問題 | 資料配布 *配布した資料を次回も持参する必要があるかは授業中に指示する | 授業終了後に授業で示した重要箇所の確認を行う。 *課題を出すので、提出期限までに提出すること。 | 90分 |
| 12 | 【環境政策】 環境政策の手法 | 資料配布 *配布した資料 | 教科書の該当範囲を読んで授業に参加、授業終了後は授業で示した重 | 60分 |

| | | | | |
|----|-----------------------|-------------------------|---|-----|
| | | を次回も持参する必要があるかは授業中に指示する | 要箇所の確認を行う。 | |
| 13 | 【環境政策】 経済的手法 排出量取引 | | 教科書の該当範囲を読んで授業に参加、授業終了後は授業で示した重要箇所の確認を行う。 | 60分 |
| 14 | 【環境政策】 経済的手法 税制・財政 | | 教科書の該当範囲を読んで授業に参加、授業終了後は授業で示した重要箇所の確認を行う。 | 60分 |
| 15 | まとめ | | これまで学んだ内容を教科書と配布資料を熟読し、学んだ内容の再確認を行う。 | 90分 |

⑪ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL を採用する。授業中にコメントを記入してもらい、コメント内容を利用する形で授業を進める。また、学生と問答をかわしながら授業を進める。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性